

アンコール遺跡の修復・人材育成と ネパールへの支援

文:日本ユネスコ協会連盟



公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟



世界遺産「アンコール」の中
でも重要な遺跡である仏教
寺院「バイヨン」。

日本ユネスコ協会連盟の世界遺産活動とは

世界中の多様な文化や自然を理解することは、平和な社会への第一歩です。祖先から引き継がれてきた大切な自然や文化を、次の世代へ届けることが、今を生きる私たちの使命と考え、危機に瀕する世界遺産を守る活動を行っています。これまでに、アフガニスタン、カンボジア、フィリピン、ネパール、ベトナムなどの国々において、危機的な状況の世界遺産に対して、保護・保全活動やそのための人材育成、普及啓発活動を実施してきました。

世界遺産「アンコール」への支援

カンボジアでは、長期にわたる内戦等の影響により、内戦終結から20年以上経った現在でも、都市部と農村部の経済格差や、貧困、識字率の低さなど、厳しい環境のもとで生活を営んでいる人びとが少なくない。

アンコール遺跡群は、年間4〜500万人以上が訪れる著名な観光地のひとつであるが、遺跡の保護や修復に関しても、カンボジア政府だけでは解決できない課題が多く、1992年の世界遺産登録以来、日本やフランスを始めとした多くの国の支援を受けて、調査・研究ならびに修復を行っている。

1994年からは、日本国

政府アンコール遺跡救済チーム（JSA/JASA、団長・中川武）により、世界遺産「アンコール」の構成資産のひとつ、バイヨン寺院の調査・研究・修復が進められている。同時に、JASAでは、プノンペン王立芸術大学の学生を対象に、考古学や建築学などの分野で専門家の育成を行ってきた。

その結果、遺跡の修復に携わる専門家を数多く輩出している。

2012年から、日本ユネスコ協会連盟では、バイヨン寺院の外廊にあるナガ彫像、シンハ彫像・欄干を対象にした修復プロジェクトをJASAの技術指導を受けながら、現地のNGOである、アンコール遺跡の保全と周辺地域の持続的発展のための人材養成支援機構（JST）とともに実施している。本プロジェクトの目的は、遺跡の修復だけでなく、JASAによって育成されたカンボジア人専門家や技能員からカンボジアの若者へ、カンボジア人からカンボジア人への技術継承を進

めることにある。JASAのカンボジア人専門家は、これまでに蓄積されたノウハウを基に、遺跡の真実性、オーセンティシティを優先した修復の重要性を説き、その技術を日々指導している。例えば、部材修理について石材修理を「石の病院」にたとえ、人間と同じように一つひとつ性格や症状が異なる石と向き合い、最適な治療（修理）方法を模索するといった指導である。

本修復プロジェクトの若手専門家であるソビアク氏は、ベトナムとの国境付近に位置するブレイベン州



©JASA

アンコール遺跡修復プロジェクトに参加し、JASAから技術指導を受けたソビアク氏（写真左上）。今後はカンボジアの若者に技術を教える立場になる。

出身の28歳。修復に携わるきっかけとなったのは、プノンペン王立芸術

大学在籍中に参加したアンコール遺跡群での研修だ。その際に、遺跡の現状や、遺跡を守っていく人材が足りないことを痛感し、また、祖先が築いたアンコール遺跡群を守っていくことは、自分たちの世代の責任であるとの使命感から本プロジェクトに参加したという。

将来にわたり、遺跡を守り、次世代に継承していくためには、カンボジア人一人ひとりの意識の向上が非常に重要である。文化財の盗掘や市場での取引などを防止するためには、教育の変革も必要。子どもたちがアンコール遺跡について楽しく学べるよう、当連盟ではカンボジア政府とともにアンコール遺跡をモチーフとした教材の開発や、教員のトレーニングを行ってきた。これらはシエムリアップ州内の学校で、正式な教材として使用されている。

今後は、当連盟の教育支援活動の拠点であるCLC（コミュニティ・ラーニング・センター）等を通じて、コミュニティ全体で文化の保全に寄与できるようプロジェクトを実施していく。

ネパールの伝統的家を修復

日本ユネスコ協会連盟では、1997年からUNESCOやネパール政府とともに、世界遺産「カトマンズの谷」を構成する7つの資産のひとつ、バタンにある伝統的な家屋「シユレスタ家」と「ラジバンダリ家」の保全修復活動を実施してきた。本プロジェクトは、築300年と言われる伝統的家を修復し、ゲストハウスとして活用することで持続可能な運営・修復を目指したもので



©UNESCO

震災による被害を受ける前のバタンの町並み。カトマンズの南に隣接しており、町の中心にはダルバール（旧王宮）がある。

で、TBSテレビの協力のもと、テレビ番組「世界遺産」を通して集められた寄附が使われた。

2015年4月に発生したマグニチュード7.8の大地震により、多くの貴重な建造物が崩壊し、世界遺産に登録されている3つのエリアにある歴史的な建造物や文化財も甚大な被害を受けた（詳細はP18）。「シユレスタ家」と「ラジバンダリ家」は、奇跡的にも大きな被害を受けることなく、現在もゲストハウスとして活用されている。

ミャンマー「バガン遺跡」の 世界遺産登録に向けた支援

2015年7月から、ミャンマー王国バガン遺跡の世界遺産登録を目指すプロジェクトがミャンマー政府とUNESCOによってスタートした。バガンは、ミャンマーで最初の統一王朝バガン朝の首都で、広大な敷地に10〜14世紀にかけて建てられた寺院やストウパが2500以上も点在している。1995年に一度世界遺産に申請されたが、適切な法整備の不足や開発、保護管理の問題等により「情報照会」決議となった。本プロジェクトでは、世界遺産への登録を目指す、適切な保護管理体制を整備することを目的としている。



©photolibary

おびただしい数のストウパが残るバガン。アンコール遺跡、インドネシアのボロブドゥール遺跡と並ぶ、アジア最大規模の仏教遺跡群として知られる。

**アンコール遺跡石像修復プロジェクト
へのご協力をお願いいたします。**

一定額をご寄附いただいた方のお名前を現地の銘板に記載させていただきます。
世界遺産基金へのご協力をお願いいたします。くわしくはウェブサイトをご覧ください。
www.unesco.or.jp

口座:00120-5-614933
加入者名:SOSアジア世界遺産

お近くの郵便局からお振り込みください。
※日本ユネスコ協会連盟への寄附は寄附金控除の対象となります。
郵便振替用紙の通信欄には次の事項を必ずご記入ください。
●お名前 住所 連絡先電話番号 e-mailアドレス
●ご寄附金額および口座(10万円もしくは105万円の内いずれか) 銘板に記載する氏名をローマ字表記(大文字)でご記入ください。(1口につき1名)